

## 和歌山病院での実習を終えて



中 勇貴

今回、和歌山県立医科大学の呼吸器内科のポリクリの一環として二日間和歌山病院にて実習をさせていただきました。

駿田副院長には、結核についての講義をしていただいたり、結核病棟を見学させていただいたりし、結核についての理解が4年生で講義を受けたときよりも深まりました。結核病棟に行かせていただく際には医大とは種類の異なる N95 マスクを着用させていただき、陰圧のかかった部屋に入室しました。結核病棟は私が思っているよりも隔離されているという印象は少なく、比較的解放的な空間だと感じました。

特に印象に残ったのは、南方院長が教えて下さった胸部レントゲンの読み方の講義です。胸部レントゲンの異常所見の見方は4年生の講義の時から学んできましたが、正常所見をレントゲンの成り立ちから詳しく学ぶことは初めてで、非常に新鮮な講義でした。また、シルエットサインについても、わかっていたつもりが、南方病院長にひねった質問をされると知識の浅さを痛感し、同時に深い理解と応用力を得ることができました。

そしてブロンコ体操を初めて教わり、胸部CTにおけるその応用の仕方も教えていただき、頭に焼き付けることができました。

先生との食事会では、和歌山や御坊の魅力、宮子姫の逸話などどれも興味深い話をさせていただきました。

お忙しい中、南方病院長や駿田副院長はじめ多くの先生のご指導のおかげで、非常に有意義な実習を過ごすことが出来ました。2日間、本当にお世話になりました。